

ま な び や 目黒の学び舎から



聖契神学校ニュースレター No.56 2020年10月6日発行 発行人 関野祐二
〒153-0061 東京都目黒区中目黒 5-17-8 聖契神学校 電話 03-3712-8746 FAX 03-3712-8804
URL: <http://www.seikei-seminary.org/> E-mail: covenant-seminary@nifty.com

主の聖名を讃美いたします。

学期休みで閑散としたキャンパス... 例年ならそう書くところですが、「今はもう秋、誰もいない海」ならぬ、「誰もいない校舎」のまま前期を終えました。朝晩の空気がひんやりしてきた10月、門の開閉で敷地を歩けば、玄関横にそびえ立つ「ゴーヤーの滝」は、150個以上の実をならせてまだ健在。どこからともなく、キンモクセイの甘い香りも漂ってきます。人気（ひとけ）がないのは寂しいですが、Zoomに明け暮れた各々の居場所で前期の余韻に浸っている教師や在校生を思い浮かべつつ、10月6日に準大接近を迎えた火星を空高く眺めるこの頃です。

「御国が来ますように。みこころが天で行われるように、地でも行われますように」(マタイ 6:10)。

校長 関野祐二

● つつがなく前期オンライン授業終了

振り返ってみれば、全在校生全教師がよくぞZoomですべての前期授業をこなせたものです。4月27日に遅らせて始まった前期は、例年より二週間短い夏休みを挟み（他団体でZoom修養会講師を経験しました。遠隔地からも参加できるメリット大）、10月3日で終了し、一週間の学期休みに入りました。毎月教師会を重ねながらオンライン授業の様子を共有し（Zoom画面でM先生の素敵なおしゃべりを褒めたら「首から下を褒めていただき感謝です」と）、社会情勢や感染状況、他校の情報も加味して今後のことを話し合い、オンライン形式を夏休みまで、前期いっぱい、と徐々に延長した結果、9月25日の教師会で10月12日からの後期もオンライン継続を最終確認（いつまで続くかは誰にもわかりません）。嬉しかったのは、演習や発表なども工夫次第でオンライン可能とのポジティブ発言が複数あったことです（こちら、後期の基礎科授業でクイズをどうやるか暗中模索。「無理ならやめましょう」と言われないうえに弱音は吐けず）。知らない所できっと、在校生にも技術的な習得や発想の切り換えが求められたはず。いつか対面授業が完全復活した暁には、「あの時はたいへんだったねえ」と、苦労話に花が咲くでしょうね。その日には、感謝パーティーを開催し、おいしいコーヒーでも淹れてあげようかな。え？お好み焼きがいい？

● 夜の目黒界隈を散策すれば

いくら「座力」に自信があっても、午前Zoom会議、午後Zoom会議二連続、夜Zoom授業では、さすがに無理。心身の不調を自覚するようになり、一念発起（というより必要に駆られて）ナイトウォーキング（ようするに散歩）を始めました。早ければ夜授業が終わる21時半、なんやかんやで遅くなった時には23時半、ポケット地図（必需品）、ループ（昆虫観察用じゃないよ、地図の文字用）、LEDライト、傘、非公開スマホ（迷子防止）、千円札2枚（遭難用タクシー代）を肩掛けバッグに詰め、ウィンドブレーカーを羽織っていざ出発。「すべて同じ道と同じ方向には二度歩かない」と律法に定め、1回に3~6km、40分~80分、四千歩~八千歩を続

けています。一度だけ音楽を聴きながら歩いたら、そっちに気を取られ臨場感が失われたので、五感（味覚はないかな。嗅覚は目黒通りのステーキ店通過でやられました）をフルに使って「場」を楽しむことに。出かけるタイミングで寮生のジョガーに遭遇したり、買い物の寮生がついてきて困ったり、いろいろです。目黒川沿いの桜並木や夜の林試の森公園の幻想的雰囲気、知る人ぞ知る蛇崩川緑道の味わい（途中で教会あり）、駒沢通りを歩いて恵比寿駅の賑わいを体感し、目黒駅経由で目黒通りのたこ焼き屋を覗いたり、神学校を起点に東西南北へ領域拡大。帰って来ると、どっと汗が出てお腹は空くし（家族からカップ麺禁止令）、喉は渇くし、身体にはよさそうですよ。道に迷うのも、新たな発見と思えば楽しみのひとつ。ポジティブ・シンキングが板についたかな。

● 事務が複数態勢に

夫：校長、妻：事務員の（文字通り）家内制は、前任から引き継いだとはいえ、既に18年目。どちらも倒れずにやって来られたのは憐れみですが、危機管理（家庭内平和も含む）からすれば理想的態勢でないのは明らかです。途中、広報と図書はY事務員に任せ、シラバス管理やオンライン化にはYr教務主任が手腕を発揮したものの、在校生の履修と成績の集計、教師の勤務管理、会計全般、行事の準備、公的機関とのやりとりなどは一本足の案山子状態で（繁忙期は雀も近寄れず）、ブラック勤務改善が急務でした。そこへ彗星のごとく現れたK事務員が、9月より週三日の業務を開始。皆に紹介したいのに在校生の登校がないのは残念ですが、その分、業務の引き継ぎ作業に集中でき、事務所は安定感抜群となりました（Y事務員の図書業務は隣室へ引っ越し。時々油を売りにお邪魔してます）。このレター発送もK事務員の手を経ていきます。家内制の弱点でもある、前例や既成概念の縛りが無い客観性と、三十余年の通信制大学事務員経験は貴重。事務スタッフはこれでカルテットからクインテットに昇格し、奏でる和音にも厚みが増したと実感しています（これがまた、見事なまでに個性やタイプがバラバラなのです）。部下(?)を持った事務員が、バックアップの登場で急に気を抜いてコケないように、二本足で立っててくださいよ。

● オンラインのオープンキャンパスとセミナーはいかが

人の来ないオープンキャンパスはいささか想像しにくいのですが、別紙ご案内の通り、今年の「献身者の集い・公開授業・オープンキャンパス」は（ずいぶん古風で長い呼称でした）、「オンラインオープンキャンパス」と銘打って、特別講演会も含めZoomオンラインで行うことに。チラシもなんとカラー印刷で（何を今更ですが）、参加申し込みはQRコードからGoogleフォームで受付（ITオタクのY先生が尽力）。聖契神学校らしくない(?)新たな挑戦です。ちなみに、上半分の中目黒ビル群写真は、神学校屋上からカメラオタクが撮りました（フィルムカメラじゃないよ）。校長の挨拶から始まって、学校説明、学生会紹介、懇談会、特別講演をすべて、滞りなくZoomで配信できるか、初めてのことなので手探り状態。不安をワクワク感に切り換えます。この日から始まる、Yn師の特別セミナー全7回には、今の段階ですでにかなりの申し込みがあり、遠隔地からの参加もあってオンラインならではの、ぜひ申し込んでくださいね。メールでも可。

● 聖契神学校の予定と祈りの課題

- ・ 在校生71名の後期オンライン授業が教師共々支えられ、感染から守られるように。
- ・ オンラインオープンキャンパス&セミナーに、多くの参加者が与えられるように。
- ・ 神学校運営が、多くの方々の祈りと支援により、安定的に守られ推進されるように。